

競技力向上の取り組み（水球）について（5カ年強化計画の成果と今後）

平成15年静岡国体を終え、スタッフ内で本県の強化を再検討したところ、早急に行うべき強化事項が2点あった。

○第一強化事項 審判員の育成

○第二強化事項 小中学生（ジュニア世代）の本格強化

これら二つの事項についてこれまでの取り組みを報告します。

まず審判の育成について。今まで本県には全国で審判できる資格を持つレフェリーが不在で、東海ブロックにおいても他県にお任せする状況であった。このことは、中央からの情報・ルール変更が十分に伝わらないままシーズンを迎えることで、選手たちに不利な条件で試合に臨ませてきた。そこで、県内OBで競技経験も豊富な酒井氏に県内審判部強化を要請。各種試合の帯同・講習会の積極的な参加をお願いした。その結果、平成18年に全国大会を審判できる2級を取得、翌19年度の秋田国体ではブロック代表審判として参加した。以後、上級審判の信頼を受け、今年度（22年度）1級への昇進が内定。酒井氏の献身的な協力と県水連の継続的なバックアップに深く感謝したい。今後も優秀な審判育成を通し、競技力向上の底上げをしていきたい。



次に2つ目の強化事項、小・中学生の本格強化について、本事項は平成7年より磐田地区では地元水泳協会の協力で細々と水球教室を実施してきたが、スタッフ不足と選手の安定化が図られず継続的な指導が行えなかった。しかし昨今、強豪といわれる県には全て小学生からの一貫強化システムが整っており、ジュニア世代の本格強化は不可欠。静岡国体後の大きな重点施策として掲げていた。そのためのまず第1ステップがスタッフの固定化。選手が集まってもスタッフが日替わりでは強化につながらない。小・中・女子（中、高）・高校・審判に区分を分け、強化スタッフを決め5カ年計画での強化を始めた。おりしもこの平成17年度は中島（現磐田西）・小杉（現磐田南）・匂坂（現浜松東）が磐田近隣の高校に同時に転勤し、共に水泳部顧問になった。強力な強化体制ができたことも大きなきっかけとなった。以来、各地区の教育委員会、OB、保護者の協力もあり選手を少しずつ増やし、18年度夏から本格的な強化が始まった。当時、東海ブロックの各県もジュニア層には相当な力を注ぎ全国でも屈指のチームに成長していたため、なかなか成果を上げることができなかったが、平成21年度末に浜松市水泳場(TobiO)がオープンし、冬季トレーニングの拠点も得、年間を通じた強化が可能となった。

平成22年度、夏季J.O.では中学男女2区分で全国出場。またその年の春季J.O.では中学男子は連続、小学生は初の出場を決めた。しかし、承知の大震災により大会は中止となる。今年度に入り、夏季J.O.では中学男子及び高校女子が出場。小学生は得失点差で東海ブロックの壁に阻まれ出場を逃がしたものの、各地方大会で群馬・富山・川崎・京都・新潟等の全国強豪チームに勝つ金星を挙げており春季J.O.の活躍が期待される。また、高校1年生以下の全国大会であるU-15全日本ユース(桃太郎カップ)東海ブロック予選で、静岡選抜は全試合に逆転勝ちし、4回目にして男子が東海を初制覇。一位通過で全国出場を決めた。12月24日から始まる大会では上位入賞を期待したい。

平成22年度、夏季J.O.では中学男女2区分で全国出場。またその年の春季J.O.では中学男子は連続、小学生は初の出場を決めた。しかし、承知の大震災により大会は中止となる。今年度に入り、夏季J.O.では中学男子及び高校女子が出場。小学生は得失点差で東海ブロックの壁に阻まれ出場を逃がしたものの、各地方大会で群馬・富山・川崎・京都・新潟等の全国強豪チームに勝つ金星を挙げており春季J.O.の活躍が期待される。また、高校1年生以下の全国大会であるU-15全日本ユース(桃太郎カップ)東海ブロック予選で、静岡選抜は全試合に逆転勝ちし、4回目にして男子が東海を初制覇。一位通過で全国出場を決めた。12月24日から始まる大会では上位入賞を期待したい。

このように、現高校一年生以下の選手において、平成17年度からの強化が少しずつ開花してきた感がある。これに満足せずスタッフ数を増やし強固な協力体制で全国屈指のチーム作りを進めていきたい。結果を出せなかった平3総体・静岡国体後も継続的な協力と激励をいただいている県水連の関係者に深く感謝いたします。今後ともよろしくお願い致します。(文責：水球委員長 丹生敬人)